■大村卓一　　{北炭}に就職し国有化で鉄道官僚，北海道の鉄道整備から大陸経営に出，満鉄総裁まで昇るも敗戦で悲惨な最期。
おおむらたくいち
学問のすすめ1872＝　　北海道に開拓使が置かれて3年，日本最初の鉄道(新橋～横浜)が開業した年に，福井市御駕籠町で，旧福井藩下級藩士で維新後は県庁の役人になった大村素農衛の長男に生まれる。
明治6年政変 1873＝ 1歳：

大久保暗殺・1878＝ 6歳：福井市進放小学校に入学，

・・・・・・1880＝ 8歳：この年，北海道で，外国人技術者クロフォードの指導のもと，石炭輸送のための官営鉄道建設に着手，
明治14年政変1881＝ 9歳：
新体詩抄・・1882＝10歳：北海道初となる官営幌内鉄道(手宮(小樽)～幌内)が全通，開拓使は廃止，小樽港は北海道流通の拠点に。
秩父事件・・1884＝12歳：卒業。旧藩校{明道館}の後身福井中学校に入学し，堅実で勤勉な福井県気質を身につけて行く。
初の対等条約1888＝16歳：開通以来めまぐるしく所管官庁が変わるなか，赤字続きだった幌内鉄道は，採炭部門を空知集治監に移管した民間の炭礦鉄道会社に貸し付けられ，それを受け継ぐ形で，
帝国憲法発布1889＝17歳：渋沢栄一ら錚々たるメンバーを発起人に設立された北海道炭礦鉄道(北炭)が営業開始した年，卒業すると，強く志願し，船便とオコリの苦労を同宿の人に助けられ，_単身北海道に渡って，札幌農学校に入学。
帝国議会始・1890＝18歳：北炭は，本社を札幌に置いて，空知炭鉱，夕張炭鉱を開発。_寮の1年先輩高岡熊雄と終生の友になり，
足尾鉱毒始・1891＝19歳：岩見沢～歌志内に鉄道を敷き，室蘭港を開発。_空知集治監の教誨師留岡幸助を知ってキリスト教に関心，
大本教・・・1892＝20歳：この年までに妹3人，弟3人が誕生。岩見沢～室蘭を開業，岩見沢が炭鉱の中心に。本科(工学科)に進み，
郡司千島探検1893＝21歳：青函航路が室蘭まで延伸される。父が死去して落胆。_農学校2期生の教官廣井勇の指導を受け，
日清戦争始・1894＝22歳：
白馬会・・・1896＝24歳：_札幌農学校工学科6期を卒業，北海道炭礦(北炭)鉄道株式会社に入社し，
八幡製鉄始・1897＝25歳：郷里に最初の帰省，親戚を招じて留守中の礼をつくす。_技師となる。この頃，夕張川の砂金採取に来た榎本武揚が宿舎をホテル代りにしたことから，その謦咳に触れ，親しく討論して啓発される。
子規句歌革新1898＝26歳：北炭監査役(戦後，経団連会長になる植村甲五郎の父)夫人の妹潤と婚約まもなく，母が死去。末弟信夫を引き取り，結婚。追分保線事務所長，以後，_多種多様な改良工事に取組んで，的確に対応，
Bushidou・・1899＝27歳：次弟保が死去。
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝28歳：長女美代子が誕生。この年，私設鉄道法，鉄道営業法公布。保線掛長を経て，
田中正造直訴1901＝29歳：妹萩野が死去，妹富江および静尾を手許に引き取る。_主任技術者となり，
教科書疑獄・1902＝30歳：_語学力や行動力を見込まれ，将来の活躍を期待されての抜擢で，欧米鉄道視察出張を命じられ，
日比谷公園・1903＝31歳：長男博が誕生。妹富江の嫁ぎ先のシアトル領事館員宅にも宿泊。最後は，地中海からの海路でなく，_視察全うと兼ねて，明石元二郎から大山巌参謀長宛の密書を預かって，完成まもないシベリア鉄道で帰国，
日露戦争始・1904＝32歳：北海道鉄道による函館～小樽開通。北炭本社が炭鉱群内の拠点岩見沢に移される。_日露戦争となり，
日露戦争終・1905＝33歳：次男英之助が誕生。北炭，官設，北鉄によって，道内の鉄道ネットワーク化が進む進むうち，
満鉄発足・・1906＝34歳：満鉄発足の年，*鉄道国有法の施行で，官吏になって，北海道鉄道作業局出張所雇岩見沢保線事務所長，
韓国反日暴動1907＝35歳：次女よそ子が誕生。鉄道国有後も，北炭の活動は盛んで，日英共同事業として設立した日本製鋼所の技術顧問。官制改正で，_帝国鉄道庁技師，北海道鉄道管理局岩見沢保線事務所長となり，工務課長を兼務。
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝36歳：青森～函館航路も国直営になった年，保線事務所長兼任をとかれて，札幌に移り，工務課長，
伊藤博文暗殺1909＝37歳：旭川の塩狩峠で列車分離事故があり，鉄道員長野政雄が殉職，のちに三浦綾子が小説にし，映画にもなる。_鉄道院総裁を兼務していた逓信大臣後藤新平の北海道視察の案内役を務め，親しく議論して大きな影響を受ける一方，来道した造林学者本多静六の提言に従い，防雪林整備を開始，
韓国併合・・1910＝38歳：三男俊介が誕生するも夭折。
大逆事件判決1911＝39歳：三女鶴子が誕生。_東宮(大正天皇)の行啓に間に合うよう，豪雨で被害を受けた余市川鉄橋を応急復旧し，計画から従事してきた室蘭港と手宮(小樽)港の水陸連絡埠頭設備が完成させるなど，その才は際立って，
明治天皇没・1912＝40歳：
大正政変・・1913＝41歳：_北海道鉄道管理局技術課長になった頃には，組織内での中心的地位を占めるようになる。
第一次大戦始1914＝42歳：四男潤四郎が誕生するも，同日妻潤が死去。
21ヶ条要求・1915＝43歳：松山市櫛部漸氏次女雪子と再婚。_札幌独立教会に入会し，クリスチャンになる。
民本主義・・1916＝44歳：四女多喜子が誕生。叙正五位，北海道鉄道一千マイル記念祝賀会。
ロシア革命・1917＝45歳：_鉄道院が不況対策で断行した大整理により，総裁官房巡察官となり，北海道を引き上げ，東京に移住。
本格政党内閣1918＝46歳：_シベリア線及東支線の破壊状況を視察すべく出張，復旧の見通しをたてた後，再びシベリア出張命令で，ウラジオストックの列国管理委員会に参加。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝47歳：五女和子が誕生。_ハルビンに移った管理委員会の国際会議のかたわらハルピン地方管理局長，
大暴落・・・1920＝48歳：鉄道省設置。_列強管理下にあったロシアの鉄道の権益を獲得しようと設置された支那鉄道統一委員会の日本側顧問，一旦帰国して勲三等旭日中綬章を受けた後，ハルピン引き揚げ北京へ。
原敬首相暗殺1921＝49歳：列強による黄河橋梁設計審査委員会委員，支那政府との庸聘契約満期。
水平社結成・1922＝50歳：_ワシントン会議の山東懸案細目協定委員となり，北京から往来し妥結，山東鉄道の日本引渡しが決定，
関東大震災・1923＝51歳：かねて宿舎にしていた青島グランドホテルに家族を呼ぶ。_引継完了，正式契約が整うまで鉄道局におしかけ車務総監の職務をとる，正式雇聘契約まとまり，謬済鉄路車処長，
治安維持法・1925＝53歳：*北京国際鉄道連絡委員会議に支那側最高委員として出席，鉄道省を辞め，朝鮮総督府初代鉄道局長として京城に着任早々，大洪水になるも，現地人を的確に誘導して，鉄道復旧作業をし，
円本時代始・1926＝54歳：_朝鮮鉄道建設十二年計画立案して，上京，
金融恐慌・・1927＝55歳：正四位。_朝鮮鉄道建設十二年計画の議会通過後，京城に戻る。
共産党事件・1928＝56歳：京城ユニバーシティークラブなどに参加して，反日感情の融和に努め，
世界恐慌・・1929＝57歳：軽量車の研究試作。この年の「鉄道従事員卒業生諸子に告ぐ」に限らず，講演や訓示も多数。
満州事変・・1931＝59歳：妻雪子が死去。
五一五事件・1932＝60歳：_満州国が建国されると，現職のまま，関東軍交通監督部長となり，奉天に赴任，新京に移るが，
国際連盟脱退1933＝61歳：旧友高岡が北海道帝大の第3代総長になった年，_関東軍との住み分けで，鉄道事業に特化する満鉄が，その成り立ち，組織，地域開拓と一体の多角経営など，北炭と共通することから，最適任者とみなされて，
芥川直木賞始1935＝63歳：_満鉄総裁に松岡洋右が就任すると，副総裁になり，
日中戦争始・1937＝65歳：鉄路総局長兼務，墓参のため，20年ぶりに渡道，恩師，旧友と再会し，防雪林の育成ぶりに感銘，
第二次大戦始1939＝67歳：*松岡の意向で，その後任第15代満鉄総裁になる。華北交通株式会社を設立，満鉄経営1万キロ突破慶祝式典に際して，建設の過程で犠牲になった多くの人たちを悼む。満浦線が開業し，朝鮮・満州が直通運転，
大政翼賛会・1940＝68歳：帰国して紀元二千六百年祝典記念章。両親の五十年の法要で，故郷福井を訪ね，母校の進放小学校で講演。駅頭で小学生や，その他の見送りを受けて，帰満。
日米開戦・・1941＝69歳：関東軍特種演習関連輸送，
・・・・・・1942＝70歳：_第1次満鉄調査部事件が起きると，軍部も絡む複雑な人事問題となり，
創価学会検挙1943＝71歳：最後の上京。_第2次事件が起きる直前に，満鉄総裁を辞任。北中支巡遊後，著述に専念し，
年金+総武装 1944＝72歳：留岡幸助氏追悼会に出席し回顧談を述べる。_「大陸に在りて」を出版，
敗戦・・・・1945＝73歳：_満洲国大陸科学院長に就任するが，ソ連参戦で，一部職員を率いて通化に移動，翌日敗戦となる。この時から詳細な日記をつけ始め，旧知の土木建築業寺田宅に滞在しながら，満鉄関係者とも話をするなどするうち，治安が悪化するなか，ソ連軍が進駐，司令官から信用された寺田によりなお安泰であったが，替わって進駐してきた中国共産党軍(八路軍)に，満鉄総裁であったことが知られて，拘留されるうち，中華民国に要請されて蜂起した日本人を八路軍が虐殺する通化事件もあって，扱いは悪化，
新憲法公布・1946＝74歳：_必死の救出作戦も空しく，満州国海龍県立病院に入院し，没した。墓所は多磨霊園。

高津俊司「北海道の鉄道開拓者～鉄道技師・大村卓一の功績～」，Wikipedia「大村卓一」，